

# 公共施設の未来を考える意見交換会 概 要 報 告

日 時 平成30年5月25日(金)18時30分～20時15分  
場 所 湯沢雄勝広域交流センター 第1研修室  
対 象 地 区 湯沢地域(湯沢北中学校区)

参 加 者 12 人

内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
湯沢地区	7	7	0	0			0			0			0			6	6		1	1	
弁天地区	1	1	0	1	1		0			0			0			0			0		
岩崎地区	0	0	0	0			0			0			0			0			0		
幡野地区	4	4	0	0			0			0			0			2	2		2	2	
そ の 他	0	0	0	0			0			0			0			0			0		
計	12	12	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0	3	3	0

市 出 席 者 湯沢市公共施設アドバイザー、  
企画課長、企画政策班長、担当

## 概 要

開 会

あ い さ つ

企画課長



説 明

①公共施設の現状と今後の取組 (企画課)



説明

②公共施設の最適化に向けて ～湯沢市民はどう関わるか～

(湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏)



質疑応答、  
意見交換



・市民の意見はどのようにこの計画に反映されていくのか。湯沢市の総合的なビジョンがないと施設が必要かどうか判断できない。

・(市) 今回の市民意見交換会だけでなく、若者や女性で構成する協議会など様々な年代、立場の方々から意見をいただく機会を設けていく。意見内容については、出来るもの出来ないものがあるが、市の考え方とともに市広報やホームページ等でお知らせしていきたいと考えている。湯沢市の基本理念と目指すべき将来像については、第二次総合振興計画で定めている。市民と議会、市の共通認識のもと、この将来像に向けて取り組んでいくこととなる。

・(アドバイザー) 次回の意見交換会では市の考え方をたたき台として示す予定であり、そのたたき台を基に市民の皆さん同士で議論してもらいたいと考えている。たたき台の内容に反対であれば、なぜ反対なのか、その代替案はどのようにしたらいいのではないかと意見をいただきたい。その意見を集約しながら年度末までに中間案をまとめ、来年度はその中間案について再度意見交換会の場を設けることとなる。また、パブリックコメントも行うなど、段階的に積み上げていながら成案化していく。ビジョンについては、市の大きな将来像は総合振興計画にあるが、集会施設について考えるには、地域経営、地域づくりの進め方はどうするのが決まっていなければならない。そのうえで、地域づくりを進めるための地域拠点として施設はどうするのかを検討する。その他の施設についても施設で行っている中身をどうしていくのか、その中身を達成するための手段として公共施設はどうあるべきかを考えなければならない。

・施設を減らすことそのものが目的ではないとのことだが、いかに施設を減らしていくことが重要であるかを感じた。また、学童保育に携わる身として、行政の縦割りを感じているので早急に改善してもらいたい。

・(市)人口構造が変化しているなか、施設に対するニーズも変化しているため、今後20～30年後を見据え、これからの時代にあった形を考える新たなまちづくりの機会であると捉えているので、単に施設を減らすだけが目的ではないと考える。市では様々な事業を行うにあたり、一つの課だけではなく他の課と連携していく必要性が高くなっている。今後も市民サービス向上のために連携しながら業務を進めていきたい。

・(アドバイザー)市で行っている事業でも、学童保育・キッズステーションなど似たような事業を二つ以上の課で行っている場合がある。この事業も、子どもたちに一番身近な施設である学校が利用できれば、サービス向上につながると考える。国ではそれぞれの省庁の縄張りがあるが、現場の自治体では縦割りである必要はなく、市民や子どもたちへのサービスを考えた柔軟な対応が求められる。公共施設の見直しは、行政改革でもっとも重要なポイントである職員の意識改革をどう進めていくかであり、職員の意識が変わらなければ何も変わらない。

・利用している人にとっては施設がなくなると困ることは分かるが、稼働率が低い施設から廃止する検討をしていく必要があると思う。集会施設や、スポーツができる施設、図書館等々、それぞれの目的が違う場合でも、全ての施設を同じように検討、対応していくのか。

・(アドバイザー)老朽化して稼働率が低い施設であっても、その施設を利用している人の活動の場を取り上げてしまってはならないので、代替案を示すなど市民サービスの低下を起さないことを優先に公共施設の再配置を行うことが重要なルールである。スポーツ施設や図書館等種目は違うが、体育館にも会議室がある場合がある。図書館についても湯沢図書館と雄勝図書館だけではなく、地域の図書活動をどのようにしていくのかと考えれば、学校の図書館機能も活用できないかという視点になる。スポーツ施設についても学校の体育館を地域の皆さんに活用してもらうなど、総合的に検討していかなければならない。

・施設の廃止が決まってから集約施設を造る、あるいは集約施設を造ったから廃止するなど、どのように再編を考えていくのか。

・(アドバイザー)施設の中で行っているサービスが今後も必要か、そのサービスを行うにはその施設でないとならないのかと考え、優先順位をつけていく。今後も必要なサービスで、その施設でなければならないとなった場合、その施設は建て替えるのか、大規模改修して長寿命化を図って残していくのかという判断をすることになる。施設で行っている事業を精査して、他の場所でもできるものであって、適地があれば統合するという選択になっていく。一つ一つの施設の機能を見る必要があるため、老朽化だけで判断するようなことはできないと考える。

・合併前の旧市町村ごとの再編となるのか、2つの地域を横断して1つの施設となる場合もあるのか。

・(アドバイザー)地域の歴史があってオンリーワンとして残すべき施設、広域的にあるべき施設、近い地域で共有していくべき施設等、どういう性格の施設であるのかを見極めるべきと考える。

・たたき台はいつ示されるのか。市民にとって見通しの効く計画にしてもらいたい。意見交換会の場をもっと細分化するなど考えていないか。

・(市)たたき台については、11月頃に再度意見交換会の場を設けてお示しする予定である。今回6会場で意見交換会を行ったが、それぞれの地区から参集していただいているので、それぞれの地区の意見をいただく機会になることができたと考えている。

・(アドバイザー)中間案では、種別毎にどうあったらよいのかという方向性を示していくことになる。次のステップとして、平成31年度には地域別に再構築する絵柄を見せて意見をいただく場面が出てくると思う。ただし、こういったエリアで見えていくかは今後検討していくこととなる。